

北海道農業 ICT/IoT 懇談会（第3回）

議事要旨

- 1 日時：平成 31 年 3 月 13 日（水） 15:00～16:50
- 2 場所：北海道総合通信局第一会議室
- 3 出席者：
 - ・構成員（座長及び主査を除き、構成員五十音順）
野口座長、西村主査（WG1）、小川主査（WG3）、秋元構成員、稲村構成員、大坪構成員、小川構成員、奥田構成員、尾崎構成員（代理 齋藤氏）、越智構成員、梶山構成員（代理 木村氏）、勝野構成員（代理 藤本氏）、黄瀬構成員、小林構成員、菅原構成員、高橋構成員、竹中構成員、丹澤構成員、津垣構成員、坪内構成員（代理 佐々木氏）、永井構成員（代理 岩澤氏）、西谷内構成員、西山構成員（代理 佐藤氏）、羽染構成員、久門構成員（代理 多賀氏）、藤本構成員、細田構成員、松岡構成員、丸山構成員、村上構成員、山口構成員（代理 古神氏）
 - ・事務局（順不同）
植田（総合通信基盤局電波部移動通信課）、梅澤情報通信部長、佐藤無線通信部長、本間企画調整課長、伊辺陸上課長、小笠原情報通信振興課課長補佐、戸澤企画調整課課長補佐、石垣陸上課上席電波検査官

4 議事

（1）開 会

（2）挨 拶

・総務省総合通信基盤局 電波部移動通信課 第一技術係 植田 史菜

（3）議 題

1 各作業班からの最終報告

（1）農業ブロードバンド整備推進作業班(WG1)

（2）農業のロボット化検討作業班(WG2)

（3）農業ビッグデータ利活用検討作業班(WG3)

2 報告書とりまとめにあたっての意見交換

3 報告書の確認、報告書の提出

4 その他

（4）閉 会

5 議事要旨

(1) 開 会

野口座長より、第3回会合（最終回）の開催が宣言された。

(2) 挨拶

総務省総合通信基盤局 電波部移動通信課 第一技術係 植田 史菜様より挨拶が行われた。

(3) 議 題

資料「北海道農業 ICT/IoT 懇談会報告書（案）」に基づき、各作業班の主査（WG2 は三菱総合研究所 下村氏が代理）から最終報告があった。

（主な質疑）

【高橋構成員】

ブロードバンド環境の整備が必要だということが示唆されているが、WG2 でブロードバンド環境が必要なところはある程度限定的であり、WG3 での検討でも自動運転のために直ちにブロードバンド環境が必要という話ではないように思える。現在 51.67%のカバーエリアを出来るだけ早期に拡大しブロードバンド環境を整備していくことは必要だが、ブロードバンド環境の整備が先なのか、いまある ICT/IoT に係る技術を実装しながら必要に応じて環境整備をしてくのか。ブロードバンド環境整備に係る経費負担や維持の負担について、各農地を持つ自治体や農業者がよいと思うモデルをどう作っていくか。そうした点を示唆した方がよいのではないか。

【西村主査】

どこに何をを使うか、具体的な検討までは行っていない。現状どこまで整備されているのか、その先の整備の課題を中心に検討した。どこまで整備拡大すべきかは、この先をよく検討していかなければいけない。例えばこの20年で、携帯電話はスマホとなり、音声通話自体がアプリの一つとなり人によってはほとんど使わない状態となった。インフラ整備は時間がかかるので、将来を見据えて整備を検討していくことが必要。

【三菱総研 下村氏】

完全自律での運用には、高精細なリアルタイム動画が必要。そのために、どれ位の通信スペックが必要かという観点である。2020年までに完全自律運用という目標に対して、各ロボットトラクターメーカーの対応状況や法制度面の進展も関係してくるが、あくまでそれが必要だとするとこれ位の通信基盤が必要となってくるという観点で考えている。技術的な観点と客観的な評価に基づき、どういう形で本当に整備が必要かというのは、これからの宿題と考えられる。費用負担も含め、先進的な岩見沢市様からのご示唆等も踏まえて、進めていくのが適切と考える。

【小川主査】

WG3 では、どういうサービスを使うにはどれ位のデータ量があるというのは整理しているが、利用シーン毎に利用データ量がどういう時間帯に使われるのか等、詳細な数値まで落とし込んだものではない。モデルについては、例えば畑作地帯でブロードバンドが整備され無線でかなり速くデータが流せるようになったら、実際にどの位使われるのかを地域を指定してやってみる方法もある。先ほど酪農地帯ではデータ活用されないのではないかと話があったが、酪農地帯でも牧草地に対応可能なトラクタ開発が進められている話も聞く。時間軸に従って、使われるデータの量・必要とされるデータの量も変わるため、今後に向けて検討が必要と考える。

【黄瀬構成員】

バックボーンとしての光と無線のネットワークをどう作っていくか。それを行政がすべてやるのか、キャリアがやるのかという話で考えている。今回総務省の新しいスキーム（高度無線環境整備推進事業）で、資料 P19 の絵のように、求める姿（農業 IoT、観光 IoT、教育 IoT、コワーキングスペース、スマートモビリティ、スマートホーム等）があり、それを実現するためのネットワークとして有線があり最後は無線があるという話を作っていく。ただし、行政からすると、デバイド地域の方々に、どうやってそこに定住してもらうかも大切な事なので、そうした利活用（マルチプルな利用）も含めてネットワークを作る必要があると考えている。例えば、農業用映像伝送のためだけのネットワークを作るのは難しいと考えており、それをいかにキャリアと一緒にできるかというのが一つのテーマである。それを支援する環境を総務省又は農水省にお願いしたいと考えている。

【大坪構成員】

農林水産省では、スマート農業を推進している。北海道のみならず、日本の農業労働が急速に縮小するなかで、今後の規模拡大、生産性向上を考えても新しい技術・先進的な技術を活用していかに生産性を高めるかが重要な課題である。特に北海道は日本の食料基地、日本の農業生産の大きな部分を担っており、北海道でスマート農業がより一層発展していくことは非常に重要なこと。スマート農業の技術活用においては、畑作、水田、酪農、様々な分野で新技術がどんどん出ており、その基盤となる通信基盤の整備を総合通信局にお願いしており、期待している。農水省では農機支援等でスマート農業を一層進めることで、北海道農業の生産性向上を図っていきたい。

【藤本構成員】

高橋構成員の話は非常に良く分かり、光ファイバを整備しても高齢の農家さんは使わないといったご意見事例もあったが、高齢世帯もいずれ世代交代がある。また、若い農家を呼んで来たいとしても、ネットが使えないような場所には来ないという事もあり、自治体や JA 等の農業を発展させていこうとする方々からは、大きに要望を頂いている。総務省としては、できるだけ要望に応えるため、新しい予算（高度無線環境整備推進事業）を確保した。一方で、高橋構成員の話は非常に良く分かるので、まずは本当にニーズの高いところからバランスをみながらやっていき更にその次のステップについてをどうするか等、また一緒に検討させていただきたい。

【高橋構成員】

ブロードバント整備が不要だと思っている人がいる一方で、担い手を見つけたいという世の中的な要請もある。しかし、本当に担い手が見つかるのかという疑念もある。それならば、面的に広げるのではなく、本当に担い手が見つかり、ビックビジネスにも変えられる分野に絞って実施する方法もあるのではないか。

【野口座長】

今後別の機会に検討していきたい。地域の活性化も関係してくるので、別の組織が必要となるかもしれない。

（手交式）

質疑の後、構成員より意見合意を得て報告書が確認され、野口座長から北海道総合通信局長に報告書が提出された。

【野口座長】

北海道農業 ICT/IoT 懇談会は、昨年7月2日に第1回の親会が開催され本日が3回目となる。3つの作業部会を設置し、各リーダーから説明いただいた通り、調査、実証実験を実施し、その成果をもとに報告書をまとめた。藤本局長にはこの報告書を活用いただき、北海道のスマート農業を1日も早く社会実装し、推進していただければと思います。

【藤本局長】

確かに頂きました。ありがとうございました。野口座長、並びに WG 主査の各先生方、農政事務所、開発局、道庁、JA 及び自治体の方々、事業者の方々、本当にありがとうございます。北海道の農業をさらに強いものにしていきたいという皆様の方向性が一致した素晴らしい報告書だと思う。この報告書を様々な場所で周知し、色々なところに働きかけ、本当のスマート農業実現のための成果を勝ち取りたい。引き続き、ご協力・連携の程、よろしくお願いいたします。

(4) 閉会

以上